



令和2年 第6号（通算311号）
一佐西学校だよりー

令和2年10月28日発行

〔発行責任者〕
長崎県立佐世保西高等学校長 宅島 健司

そうだね そうだね

校長 宅島 健司

この田原台の風を書くに当たって、ずっと思っていたことがある。それは毎週火曜日午後10時30分から11時20分放送の、スガシカオ「Progress」の主題歌で有名なNHK「プロフェッショナル 仕事の流儀」に出演された方について、皆さんに伝えたいという思いである。今手元に「プロフェッショナル 仕事の流儀 運命を変えた33の言葉」（NHK「プロフェッショナル」制作班 NHK出版新書）、同じく「人生に迷わない36の極意」、「壁を打ち破る34の生き方」、「『プロフェッショナル仕事の流儀』スペシャル 挑み続ける力」、「『プロフェッショナル 仕事の流儀』決定版 人生と仕事を変えた57の言葉」の5冊がある。

この番組は、NHKのプロデューサーが、「仕事というものは、思うようにいかないことが多い」ことから、「どうすれば、ぶれたり悩んだりせずに、仕事に向き合うことができるようになるのか。苦しいときに、心を奮い立たせることができるのか。」をずっと考え続け、ある日ふと思った「一流の仕事人と言われる人たちは、いったいどうしているのだろう？」をきっかけとして生まれた。

このプロデューサーがプロフェッショナルの仕事を見続けるなかで、気づいたことは、一流と言われる人でも、仕事がうまくいかないことは日常茶飯事であること。そして悩んだり迷ったりするということ。ただ、彼らには、そんなときに自らを支える、確固たる「流儀」があること。その流儀がどうやって生まれたのか。番組では、毎回、その人のこれまでの軌跡や人生の転機、いわば、その人が「プロフェッショナル」になるまでの歩みを紹介している。

その中で、多くの人が語ったのが、「言葉」にまつわるエピソードである。仕事の師から伝えられた言葉。偶然、仕事仲間から聞いた一言。本の中の一節。ドラマチックなシチュエーションで心に突き刺さった言葉もあれば、他の人だったら聞き流したかもしれない一言を、金言として自らの心に深く刻んだ人もいた。そして、それらの言葉はプロフェッショナルたちの人生を変え、仕事を変えた。

その一人、村松謙一さんは、全国でも珍しい企業再生専門の弁護士だ。一部上場企業から小さな個人商店まで、倒産の瀬戸際にある会社を100社以上よみがえらせてきた。通常「民事再生」という手法が使われるが、村松さんは「私的再建」という特別な方法を使う。これは、独自に練り上げた再建プランを極秘で金融機関に持ち込み、借金を減らしてもらう手法である。金融機関を納得させるだけの再建策を示さなければならず、膨大な労力を要する上に、交渉は困難を極める。それでも、知恵を絞り、瀬死の企業を救おうとする。「お金を返しなさい。返せないのなら家屋敷を売りなさい。」そこまでは分かる。しかし、生きていけないようにすることはおかしい。一人ひとりの幸せをも奪ってしまうような経済合理性は必要ない。会社の救済は、そこで働く人の人生を守ることだと村松さんは言う。だから、「みんなが見放しても、弁護士である僕らは見放しちゃいけない」と訴える。

44歳の時、悲しい出来事が起こった。相談に乗っていた地方の子ども服店の社長の死であった。遺書には村松さんへの感謝の言葉が綴られていたが、村松さんは差し押さえを止めるための書類を作りながら、自分を罵倒し続けた。「それまでは、私の力と私の技と経験で大概の人は助けられると思っていたが、実は助けられなかった。」

悲しみはそれで終わらなかった。長女が体調を崩し倒れ、何日か食事が喉を通らず入院することとなった。そしてその数日後、突然亡くなった。一番大切な娘すら守ってやれなかった。村松さんは自分を責め、放心状態の日々が続いた。電車に乗っては泣き、階段を上っては泣き、歩いては泣いた。公園のブランコで何をするでもなくぼんやり過ごした。深い悲しみにくれる日々。

村松さんの不幸を聞きつけ、全国から、かつて地獄のような日々を経験した依頼者たちが駆けつけてくれた。なかには、まだ再建の途上にあり、苦しい状況にもかかわらず、旅費を工面し、遠く北海道から来てくれた人もいた。悲しみにくれる村松さんの傍らで、何人もの人が、ずっと横に座ってくれた。背中をさすってくれた。一緒に涙を流しながら、言葉にならない言葉に、ずっとうなずいてくれた。

そうだね。そうだね。

そう言ってくれたことが、何よりも、ありがたかった。

「会社が倒産しかかっている厳しい状況なのに、みんな私に寄り添い、ただ、うなずいてくれた。絶望の中にいる人に、生きる力を与えてくれるのは、何かを言うことではなく、黙ってうなずいてくれる『無言の言葉』。『本当の悲しみ』は、言葉では救えない。僕が泣

いている横で『そうだね。そうだね。』と言ってくれた人の温かさ。大阪の社長さんは、「せやねんな」と言ってた。今思えば、『無言の言 霊』というものがあっただと思うんです。」

助ける側だった村松さんを、助けられる側の人々が、「無言の言葉」で支え、生きようとする勇気と希望を与えてくれた。

10月8日（木）共通テスト100日前集会で、ご講演いただいたベネッセコーポレーション副社長 山河 健二氏のレジュメ「これからの時代を生きる皆さんに」の一節に

○共感がすべてのベース

・相手を論破しても、上手くいくことはない、論破されて嬉しい人はいない。

・相手の共感を引き出す、自分も相手（目上、力、存在感ある）に共感を覚えてもらえるような知識、経験を積むこと。

・共感の中からしか、仲間は生まれない、仲間が気弱な自分を励ましてくれる。

と記されています。

ここまで読んだら、この文章の「仕事」を「勉強」や「部活動」に置き換えてみてください。誰もがうまくいかないことは日常茶飯事であること。そして悩んだり迷ったりするということ。そんなときにプロフェッショナル達が見つけたように、自らを奮い立たせ、苦難を乗り越えていけるような、自らを支える、確固たる「流儀」を見つけ、自分なりの「言葉」を探してほしいと思います。

「Progress」の歌詞の一節

ずっと探していた理想の自分って もうちょっとカッコよかったけれど

ぼくが歩いてきた日々と道のりを ほんとは“ジブン”っていうらしい

世界中にあふれているため息と

君とぼくの甘酸っぱい挫折に捧ぐ・・・

“あと一歩だけ 前に進もう”

秋季球技大会 10月7日（水） 午前中：2年生、午後：1年生 実施

【男子の部】

ソフトボール 優勝 1年2組・2年2組
準優勝 1年3組・2年1組
バレーボール 優勝 1年2組・2年5組
準優勝 1年4組・2年3組

【女子の部】

キックベースボール 優勝 1年6組・2年3組
準優勝 1年5組・2年4組
バレーボール 優勝 1年5組・2年6組
準優勝 1年1組A・2年5組

今年はコロナウイルス感染症対策で、1・2年生のみ半日ずつ、学年ごとの開催になりました。春の大会が中止だったため、1年生にとっては高校で初めての球技大会でした。他学年との対決はできなかったものの、1・2年生ともにレベルの高い真剣勝負が繰り広げられ、期末考査開けの元気な声が、会場に響きました。〈生徒会〉



《11月の行事予定》

1	(日)	3年進研マーク、2年進研記述	14	(土)	コモンホール学習
2	(月)	校内読書週間（～6日）	19	(木)	DV防止講話（2年）
3	(火)	コモンホール学習	21	(土)	共通テストプレ①（全統）
5	(木)	人生の達人セミナー（1・2年）	22	(日)	共通テストプレ①（全統） 55日前集会
6	(金)	高総体駅伝競技	23	(土)	コモンホール学習
7	(土)	大学別模試（3年）	25	(水)	県教委指定「ふるさと教育」中間報告会
8	(日)	第2回英検2次	26	(木)	性教育講和（1年） 受験用個人写真撮影（3年）
10	(火)	校内マラソン大会	27	(金)	後期中間考査時間割発表
11	(水)	校内マラソン大会予備日	28	(土)	コモンホール学習
12	(木)	ふるさと創生マイプロジェクト大会			

※8日（日）・29日（日）のコモンホール学習はありません。

大学入学共通テスト１００日前集会

１０月８日（木）に５５回生の大学入学共通テスト１００日前集会および進路講演会を行いました。１００日前集会では、宅島校長先生と３学年主任の峯先生からの激励の後、生徒を代表して７組の喜多ももかさんが受験に向けての決意表明を行い、その後学年全体で円陣を組んで喜多さんの掛け声で、絶対合格するぞという気合いを入れることができ、残り１００日後に迫った共通テストへの意欲を高める機会となりました。

また、今年度は株式会社ベネッセコーポレーションから取締役副社長山河健二先生をお招きし「羽ばたけ！佐世保西高等学校『今と将来を考える』～自分を大切に～」という演題で講演をしていただきました。とてもユーモアにあふれた講演で、生徒たちは楽しく真剣に聴講するとともに、「社会においては○か×かだけではなく、△もあるが、受験は○か×しかない。いかに○に近づけることができるか。『うだらない』工夫をすることの大切さ」など多くのことを学びました。先生の熱のこもった言葉に、お礼の言葉を述べた１組の八尋さんをはじめ、５５回生全員が改めて気を引き締めて受験勉強に臨み決意をしました。本番で良い成果が出るよう頑張りましょう。



主な試合などの結果

<陸上部> ○令和２年度佐世保地区高等学校新人陸上競技大会

女子総合 第１位

女子２００m	第２位	北村和望、	女子４００m	第１位	森 愛里
女子８００m	第３位	久保川悠、	女子１００mH	第１位	岩崎萌
女子４００mH	第１位	森 愛里、	女子走高跳	第１位	岩崎萌、第３位 小林彩絵
女子走幅跳	第２位	廣重めかり、	女子三段跳	第１位	廣重めかり、第２位中竹七海
女子砲丸投	第２位	金武由、	女子やり投	第１位	瀧下紗幸
女子円盤投	第３位	金武由、			
女子４×１００mR	第１位	竹内海加、森愛里、北村和望、岩崎萌			
女子４×４００mR	第１位	三ヶ島如菜、森愛里、北村和望、岩崎萌			

男子総合 第２位

男子１００m	第１位	岩村勇希、	第２位	大串翔大
男子２００m	第１位	岩村勇希、	第２位	大串翔大
男子１１０mH	第１位	田代立輝、	第２位	加留部凧、第３位 手島日向
男子４００mH	第２位	田代立輝、	第３位	青井颯汰
男子走高跳	第１位	金丸慶太郎	男子三段跳	第１位 金丸慶太郎、 第２位 深堀真太郎
男子４×１００mR	第４位	岩村勇希、大串翔大、森豪太、手島日向		

○令和２年度長崎県高等学校新人体育大会陸上競技大会

女子七種競技	第１位	岩崎萌	女子走高跳	第１位	岩崎萌
女子４００mH	第１位	森愛里	女子４００m	第３位	森愛里
女子４×４００mR	第１位	三ヶ島如菜、森愛里、北村和望、岩崎萌			
男子走高跳	第３位	別当楓夏			
男子４×１００mR	第３位	手島日向、大串翔大、森豪太、岩村勇希			

***全て九州大会出場**

<弓道部> ○令和２年度佐世保地区新人体育大会弓道競技 団体競技 女子 第３位

<男子バスケットボール部>

○令和２年度第５２回県北地区高等学校長崎新聞社杯バスケットボール大会 第３位

<ソフトテニス部> ○令和２年度新人体育大会ソフトテニス競技佐世保地区予選

団体	男子の部	第３位			
個人	男子	柄本・林ペア	準優勝	女子	丸田・芥川ペア 第３位

<書道部>

○全国書画展覧会運営委員会主催第４１回ふれあい書道展

特選 平野友梨、佐多友香、山田歩生、北村亜依香、小瀬莉寧、山口喜美佳、野村萌花、春田里桜、里村歩、市岡宙、坂井優香、杉原胡音、増山夕月、増田陽、池田爽汰、眞辺結月、豊村末夢、浦川七海、川原悠生、青木美優

○全国書画展覧会運営委員会主催第４１回ふれあい書道展

特選 平野友梨、佐多友香、山田歩生、北村亜依香、小瀬莉寧、山口喜美佳、野村萌花、春田里桜、里村歩、市岡宙、坂井優香、杉原胡音、増山夕月、増田陽、池田爽汰、眞辺結月、豊村末夢、浦川七海、川原悠生、青木美優
下村梨央、西澤礼華、宮城心々美、桑原理緒、西崎愛菜、萩原佑太、山野陽菜、松本梨乃、森田有里子、八並遥

○令和２年度長崎県高等学校文化連盟書道部門主催第１９回揮毫大会

優秀賞 浦川七海 （九州大会出場決定）⇒今年度の九州大会は、コロナウィルスの影響で中止
里村歩、豊村末夢、西澤礼華、宮城心々美

<写真部>

○令和２年度長崎県高等学校総合文化祭第１６回写真展

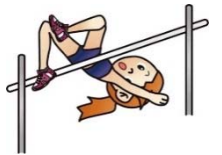
優秀賞 増田ふぶき（九州大会出場決定）⇒今年度の九州大会は、コロナウィルスの影響で中止
優良賞 大曲陽菜

<その他>

○赤い羽根クオカードデザイン募集

優秀賞 原田玲香 佳作 茅原 舞

○第９回松浦・マッカイビル・モロイ杯 English スピーチコンテスト
オリジナル・スピーチ部門 第３位 2-3 田中日菜



ふるさと創生大作戦 学年発表会（２学年）



１０月１５日（木）にふるさと創生大作戦の学年発表会が実施されました。当日は外部から８名の方々をお招きし、審査および講評を行っていただきました。７月３０日（木）に実施した中間発表での反省や課題を踏まえつつ、夏以降、フィールドワークに行ったり、商品の販売を行ったり、イベントを開催したりしながら、学年発表会へ向けて準備を進めてきました。今回の発表会で選出された６班はマイプロジェクト審査会（１１月１２日）へ向けてさらに準備を進めます。また、ほかの班はポスターセッションの用意に取り掛かります。選出された６班と発表タイトルは以下の通りです。

【１班】絵で伝えたい本当の魅力

【５班】高校生から佐世保の特産品の地産地消を広げる活動をしよう

【２７班】次の佐世保の名物は！！入港ぜんざい！！

【４７班】Bride to our Smile ～子育てしたいと思える佐世保を目指して～

【１７・３２班】カブトガニを支える佐世保の海

【３９・４１班】フリーペーパーとQRコードで佐世保をPR！！



長崎大学学部説明会・講義体験

１０月２０日（火）、１年生を対象に長崎大学の学部説明会・講義体験を実施しました。今年は、Zoomを使ったオンライン形式で、１０種の学部・学科の先生方から各学部の特徴や魅力、大学入試に関する得点比率や、在学中の資格取得率、国家試験合格率などをパワーポイントや動画、事前に送付されてきた資料等を通して、分かりやすく説明していただきました。生徒たちからの質問にも答えていただき、生徒たちにとって、非常に有意義な講義となったようです。大学に進学する際に、目的意識を明確に持ち、大学で学び、自己の将来を見据えて、今から頑張ってもらいたいと、激励の言葉もいただきました。

